

平成26年度第2回議会報告会（市民と議会のつどい）実施報告書

開催日時	平成26年11月16日（日） 午後1時30分～3時40分	
開催場所	庁舎北別館 会議室1	
担当議員	班代表者	島野 均
	司会者	長岡 一夫
	報告者	西山幸千子、吉元 善宏
	記録者	七条 孝之、兎本 尚之
	班員 (上記以外)	倉 克伊、深山 國男
参加人数	11人	
主な質疑・意見等	<p>Q：交付税13億円の削減と7億円借金が増加しているが、長期的な財政の健全化の観点からどういうふうに対処していくと考えられているのか、議会の議論が私には見えなかったなのでこの機会に伺いたい。</p> <p>A：収支は黒字であり、公債費比率も悪くなく、基金も多く、新しく街ができていますので多くのお金が必要。財政は厳しいが順調に推移している。</p> <p>35億円の借金だが、約25億円ほど交付税に算入されるもので、交付税として返ってくるものであろうと考えられる。特殊な制度があるので、足し算引き算でないのではと考えられ、制度を活用しながら財政を健全に運営しているものであると判断している。</p> <p>交付税削減は、行政機関の監視役として、行財政改革は大切であり今後の課題であると認識している。</p>	
	<p>Q：政務活動費の透明性は。支出の適正性についてどのような状況か。</p> <p>A：1円まで領収書を添付。宿泊費と公共的運賃のみの支出。広報紙の配布は3/4が支出の対象、1/4は自費。政務活動費は議会だよりに詳細を掲載している。</p>	
	<p>Q：基金を増やそうとしていることを良くないと指摘している議員がいるが、その発想がわからない。主張されている施策にお金を使いなさいという趣旨は解る。それはそれとして、基金を増やしたらいけない理由がわからない。</p> <p>A：決算特別委員会の自由討議で、交付税減額に向けた基金の取り扱いについてといったテーマは挙げたが、委員会としては一致しなかった。基金を貯めて後の世代に残すことも大切だが、現在の世代にもしっかりと投資しなければならないのではという主張だったと認識している。</p>	
	<p>Q：今なぜ定数削減か。選挙はいつか。</p> <p>A：平成22年の時から党派としては4人削減で22人にしたいと進めて</p>	

	<p>きた。統一地方選挙は4月実施。</p> <p>Q：小学校やクリーンセンターの入札の不調の理由は。不調にならないようにすることを議会も考えなければならないのでは。違約金は。</p> <p>A：クリーンセンターは業者側は設計どおりだと建設費が高くつくので上げて欲しいとのことだが、行政側としてはそれはできないということで新しい業者を探しているところ。入札に至っていないので違約金は発生しない。労働者の不足や資材の高騰で入札参加者が1者しかなく入札できなかった。</p> <p>意見：木津駅前の区画整理、下水道整備、学校の耐震工事が終わっていない、必要などころにお金を使っていない。基金を必要以上に貯めるのは違うのではないかと思う。議会がもっと市長と対峙するかたちで市民のくらしを検証していただきたい。</p> <p>Q：特別委員会での市民と意見交換、公聴会、アンケート3つの比重の位置づけは。それぞれの想いをきっちり受け止めて欲しい。</p> <p>A：個々の議員が判断するべきだと思う。</p> <p>意見：兜台は平城相楽ニュータウンで奈良市側と一体でつくられたまちである。府県も自治体も違うのだが比べてみると行政サービスが悪い、同じニュータウンでありながら。交流会館みたいなものがない。平城ニュータウンには、立派な会館があり、図書館があり、高齢者が集える場所もある。そういうのを見ていたら、こっちへ来てみたら損した気分になる。今あるものを一緒に使えないか、自治会も要望している。</p> <p>Q：委員長報告に対して詳しく説明を求めているときに、詳しい説明することなく進んでいる。市議会はたんと進むがそれでいいのかと思う</p> <p>A：議員全員で心がけていく。</p> <p>意見：慰安婦問題について、平成22年に意見書を可決している。「ウィル」を読んでいるか。意見書を出されているがどうされるのか。是正しないのか。</p>
<p>質問・要望等で行政側へ報告すべき内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・議員の質問に対して、行政側はしっかりとした答弁をすべき。 ・入札不調は方式に問題があるのではないか。 ・企業誘致、観光プランニング、機械化の推進を。
<p>その他特記事項</p>	

上記のとおり、報告します。

平成26年11月28日

木津川市議会議長 西岡 努 様

平成26年度第2回議会報告会

第1班 代表者 島野 均 印